

～ 元気にあいさつ明るい新発田 ～

広報はばたき

第56号

新発田青少年健全育成市民会議

青少年健全育成講演会

地域が育む子どもの未来
～新発田はいつもキミの味方だよ～

1月13日(土)、新発田駅前複合施設「イクネスしばた」の多目的室1を会場に、西村純子さんを講師に迎え、新発田青少年健全育成市民会議「青少年健全育成講演会」を開催しました。

西村さんの生い立ちや経験などを振り返りながら、「子ども達に多様な生き方や価値観があることを知ってもらうためには、まずは大人が変わろう、そうすれば子どもの社会も変わる。新発田はそれができる街」という地域や社会を通した子どもの育成について、お話をいただきました。

講演会当日は、雪交じりの悪天候ではありましたが、参加された皆さんは、講演を通して、西村さんの子ども達を思う気持ちや新発田を愛する心に触れ、冬の厳しさも忘れるような、新春にふさわしいひと時を過ごしました（講演内容の一部を次のページに掲載しております。）。



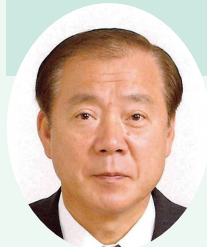
講師プロフィール

西村 純子さん

- ・(株)エフエムしばた 代表取締役
- ・街角こんぱす(株) 代表取締役『街角こんぱす』編集長
- ・新発田市出身。出版社勤務を経て、2011年8月より、月刊フリーマガジン『街角こんぱす』編集長に。
- ・2022年5月、(株)エフエムしばた 代表取締役に就任。

コロナ禍を乗り越えて

新発田青少年健全育成市民会議 会長 小出 隆一



明日の新発田を担う青少年が、心身共に健康でたくましく成長することは、私達すべての願いであり、市民の皆様には、日頃から青少年の健全育成に格別なるご支援とご協力を賜り、感謝と御礼を申し上げます。

昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことを受け、今年度は、これまで縮小あるいは中止していた活動を徐々に取り戻す1年でありました。昨夏に市民大会と併催した「ーわたしの主張ー新発田市大会」では、参加した中学生の主張をラジオで放送するという新たな取組を試みたように、コロナ禍を乗り越えて更なる青少年の健全育成活動に取り組んでまいりますので、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

青少年健全育成講演会

「どんな生き方でも自分で選んでいいんだよ」

『街角こんぱす』という雑誌の仕事を通して多くの方にお会いする機会がありました。改めて感じたのは、新発田にはいろいろな職業の方がいるのだなということです。東京などでは会社勤めの方が多いですが、新発田では、飲食店や和菓子屋をはじめ、例えば、刀剣や仏壇などを作っている職人さんもおられます。自分の手から何かを作り出す方というのは魅力的で、人間としての奥深さをお持ちの方が多く、そういう方たちと子どもの時にもっと出会えていたら職業の選択肢も増えていくのだと思います。「いろいろな生き方があることを伝えたいな」「子ども達にも読んでもらいたいな」という想いから、『街角こんぱす』ではそうした方々を紹介する特集を組みました。どんな生き方でもできる、そして、それを自分で選ぶことができる、選んでいいんだよ、ということを、私達大人が次の世代に向けてもう少し伝えていけたらいいなと思います。



「子どもが変わるには大人が変わらなきゃ」

私の周りには、イベント開催であったり、フードバンクなどの活動であったり、地域を元気づけるための活動をしている方たちがたくさんいます。そうした活動に子ども達も巻き込んでいくと、子ども達がどんどん輝いて、どんどん元気になっていく様子に驚かされます。やはり机に向かうだけではなく、大人と一緒にさまざまな活動に参加する、言葉ではなく生き方そのものを子どもに見せていくような場をつくるのが大切だと感じます。子どもが変わるには、まず大人が変わらなきゃいけないよね、ということです。私は自分の仕事がとても面白く、遊びのように楽しんでやっていますが、そのように楽しみながら、誇りを持って仕事をしている姿を子どもに見せることが大事だと思っています。自分のためではなく、誰かのため、地域のために、自分の時間と力をどんどん使っていきたいですね。

「いつでも新発田はキミの味方だよ」

人口減少を考えると、子ども達にいかに地元にとどまってもらうか、地元を出た子ども達にどうやって戻ってきってもらうか、ということが問題になります。私は、子ども達に一度は外に出てほしいと強く思っていて、世界中のどこへでも行って、そこで自分の活躍できる場所が見つかればよし、身に着けた知識や

技術を新発田に戻って生かしたいと思うならそれもまたよし、と考えています。一方で、壁にぶつかり、疲れて地元へ戻るということもあるかもしれません。どんなときも「いつでも戻ってきていいんだよ」「新発田はいつもキミの味方だよ」と言ってあげられる街であってほしい。どんな立場や境遇であっても、誰もが安心して自分らしく過ごせる場所。そうした懐の深さを新発田はすでに持っていると思いますし、だからこそ、子ども達には安心して好きなことにチャレンジしてほしいと願っています。



青少年はぐくみ環境懇談会 令和5年11月24日(金)

新発田市健康長寿アクティブ交流センター 大ホール

児童虐待を知る

新発田児童相談所 所長 森本 成彦 様

■児童虐待の対応件数の増加■

全国での児童虐待の対応件数が、令和2年度に初めて20万件を突破したということで話題になりましたが、ずっと右肩上がりが増えて続けています。少子化と言われ子どもが減っているにもかかわらず、児童虐待の対応件数が増えている状況はとても憂慮すべきことです。新潟県についても、令和4年度は前年度から150件強増え、3,661件という状況です。

■児童虐待への対応の視点■

子どもの権利擁護、発達支援、自立支援、パーマネンシー保障（子どもに対する継続的なケアをしていくこと）など、子どもの人生を子どもの手に取り戻すことが、児童虐待対応の基本的な視点になります。

■ヤングケアラー■

ヤングケアラーは、一般に本来大人が担うと想定されているような家事や家族の世話などを日常的に行っていることにより、負担を抱えているもしくは子どもの権利が侵害されている可能性がある18歳未満の子どものことで、世話をしている家族がいない子どもと比較して、健康状態が良くない、欠席や遅刻、早退が多い、忘れ物が多いなどという状況にあります。

こうした状況に周りが気付いて支援に繋げていくことが大切です。理解者がいないことがヤングケアラーとしての孤立を深めて、生きづらさを生じさせています。子どもたちは自分が大事にされた経験がないと、人を信頼することや耐えることができません。逆に言えば、自分を受け入れてもらえたという感覚を持って、人に伝えることができれば、生きづらさを感じずに済むのではないかと考えられます。ただし、わかったふりですとか、見えているふりをして、良かれと思ってしていることが、ときにヤングケアラーと言われる子ども達を傷つけることもあります。ヤングケアラーの困難と価値の両面の理解が必要になりますので、正しい理解と啓発活動が重要になってきます。

子どもの人権を侵害するということがヤングケアラーに繋がっており、人権侵害は児童虐待に繋がっています。



新発田警察署管内の 少年非行等の状況

新発田警察署生活安全課 課長 高橋 俊充 様

過去5年間に新発田警察署で検挙された非行少年について見ますと、半数近くを万引きや自転車盗などの窃盗が占めています。非行の入口と言われている初発型非行を抑止することが重要です。警察としては、パトロールのほかに、小・中学校や高校に赴いて非行防止教室などを開催し、こうした初発型非行や子ども達の携帯電話の使い方、インターネットやSNSの利用方法等について、広報を行っています。



啓発用クリアファイルを 各小・中学校へ配布しました

11月の「子供・若者育成支援推進強調月間」に合わせて作成した啓発用クリアファイルを、市内の各小・中学校の児童・生徒に配布しました。

クリアファイルには、市内各地区の育成協議会等から募集した青少年健全育成に関する標語を掲載しており、健全育成活動の周知に役立てています。ぜひ学校やご家庭などでご利用ください。





アップでーと

市民会議の構成員のうち各地域や各専門分野で健全育成活動を実践する組織について、シリーズで紹介します。それぞれの最新情報（アップデート）にぜひ注目をお願いします。

川東地区自治連合会教育環境支援部

私達の活動を2つ紹介します。

1つ目は、川東小学校のスキー教室の支援です。雪の楽しさと怖さをいっぱい体験し、教員以外の大人（とらい夢、地元講師）から学ぶ貴重な経験をしています。

2つ目は、自治連合会、教員、PTA、駐在所、民生委員、主任児童委員で構成する部員で、夏休みと冬休み前の年2回、地域連携会議を開いています。「児童、生徒の幸せ」に繋がる内容で、毎回意見交換をして多種多様の考えを引き出せるよう、ワークショップで行っています。

社会に必要なとされる大人に成長してもらえるよう、私どもができることで支援していきます。



さわやか佐々木っ子育て会

ひつじ田を淡く彩り、夜空に咲き誇る可憐な花火が、この佐々木地区にはあります。

新型コロナウイルスの流行により、例年開催していた「夏祭り」の代替案として始まりましたが、今では子ども達だけでなく、広く地域の方にも人気の行事となっております。

初年度においては、本当に佐々木地区で花火の打ち上げが可能なのか、また地域の親子の気持ちが一体になれるものかどうか、様々な考慮をして辿り着いたのが稲刈り後の田んぼでの打ち上げでした。未知のウイルスから患者を救うべく多忙を極めていた医療従事者等、苦しい思いをしながらも社会のために頑張る方々へ想いを馳せ、感謝の気持ちを届けようとの願いを込めて勤労感謝の日となりました。花火の翌日には、打ち上げ場所となった田んぼに子ども達や地域の方が集まり、ゴミ拾いを行うのが恒例となり、花火とゴミ拾いを通して、地域・親子が互いに親睦を深める機会となっております。

今後も、佐々木地区に住む子ども達や地域の方々のためにできることを考え続けながら、微力ながらも尽力して参りたいと思っております。



あとがき

この度の能登半島地震において被災された方々に心よりお見舞いを申し上げ、1日も早く平穏な日常が訪れます様にお祈りします。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、私達の日常は以前の様な活気が戻って来ました。今年度、市民会議の活動は様々な配慮を重ね、関係各位のご尽力のお陰で無事に実施する事ができました。

市民会議の活動の様子をより分かりやすく皆様にお伝え出来る様、今号の「はばたき」では新たな誌面作りを試みました。皆様にはどの様にご覧頂きましたでしょうか。自分としても今までの固定観念が変わる事に些かの違和感を覚えながらも「これも良いかも」と気付かされました。視点を変えると景色も変わる。多様性が多く語られる昨今、柔軟な心で日々を過ごせる様心がけたいと思います。
(編集委員 遠山 明美)

発行

新発田青少年健全育成
市民会議

事務局

新発田市青少年健全育成
センター

住所

新発田市緑町2-6-36

電話

0254-26-0897

編集委員

井澤 栄一郎 浅倉 真美
遠山 明美